

ほうだん 飽暖・飽煖

【意味】『名』

「ほうしよくだんい（飽食暖衣）」

*本朝文粹（1060頃）六・申大内記木工頭并淡路守状〈藤原篤茂〉「妻孥飽煖、僮僕歡娛」

*百一新論（1874）〈西周〉上「飽暖安逸の欲を遂げた後は、耳目の欲に馳するが当然で」

*趙抃・次韻即事見懷詩「郡邑豐穰真可_レ喜、人家飽暖更何憂」 （発音）ホーダン

【参照辞書辞典】『日本国語大辞典』 小学館